

平成31年度 学校評価表

品川区立鮫浜小学校

校長 松本 覚

鮫浜小学校校区教育協働委員会

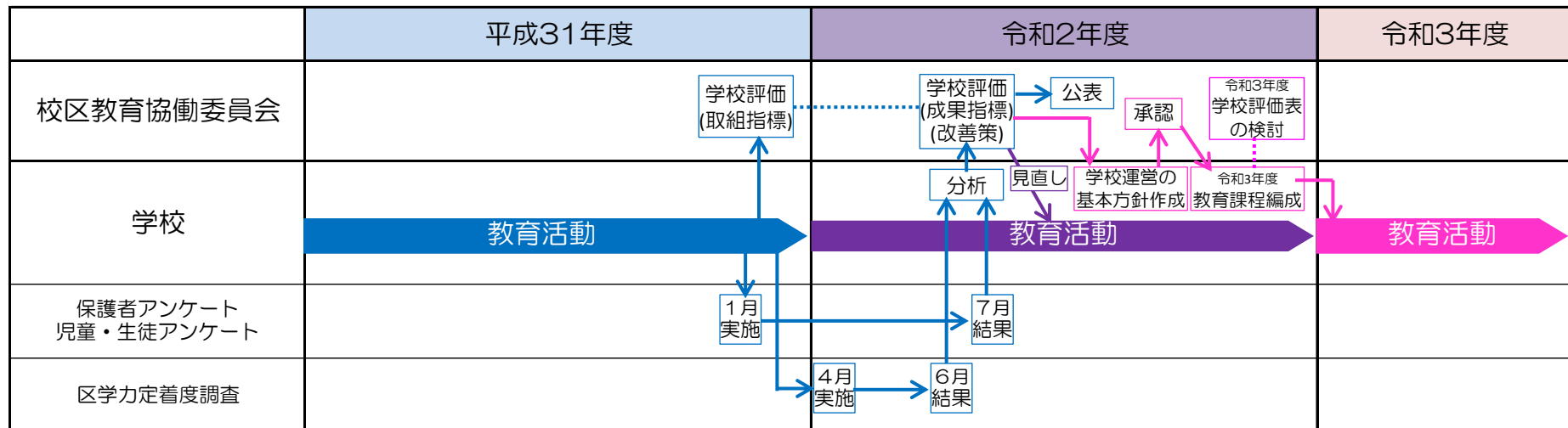
委員長 岡明 秀忠

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成31年度の学校評価が令和2年度および令和3年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 学力に関すること

重点目標		(1)学習規律の徹底を図る。～学習規律(チャイム着席、あいさつ、学習準備、学習態度、ノート指導等)について全教員で共通実践する。 (2)基礎的な知識、技能習得のため、帯時間、放課後、未来塾等を活発化させ、補充学習の充実を図る。 (3)ICT機器等を授業で効果的に活用し、学習意欲の向上を図る。 (4)基礎的な表現能力の育成を図る。各教科、領域において言語活動の充実に重点を置いて指導する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	基本的な学習規律(チャイム着席、学習準備、学習態度など)について8割以上の児童が身につけている			
	教師は、学習規律を定着させるよう共通の認識を持ち、意識して、発達段階に応じた適切な指導を行っているか。	学年に応じて合言葉や手本を示したり、学習のルールを視覚化したりして継続して指導を行った。生活指導部会と連携を図り、聞く姿勢になるまで待つ指導を行ったことにより、だんだんに話を聞くことができるようになってきている。	B	
②	区の学力定着度調査の結果が昨年度より向上しているか。または、全国平均を上回る事ができたか。			
	教師は、個に応じた指導方法の工夫・改善に取り組むとともに、放課後、長期休業中など課外に行う学力補充活動を充実させているか。	学級や児童の実態に応じて、学習活動を工夫した。MIM-PMのアセスメントや学習状況の結果から、放課後指導を行った。夏季休業中には、全学年を対象にサマースクールを行った。	A	
	教師は、ICT機器の活用や活動型の学習展開など、児童の学習意欲を高めるための工夫・改善に取り組んでいるか。	デジタル教科書や書画カメラを活用した、授業展開を行った。高学年はパワーポイントでのスライド作成の指導を行い、集会で発表させた。	B	
③	9割以上の児童が「さめはま学習帳」を提出しているか。それ以外の学習について、7割以上の児童が取り組んでいるか。			
	教師は、「さめはま学習帳」、ICT課題、各教科の宿題、自由学習、日記を織り交ぜ、毎日、各学年×10分以上になる家庭学習を児童に取り組ませているか。	鮫学の提出率は、全学年9割を超え、その他の宿題は、低学年は9割、高学年は7割を超えた。ICT課題は、週1回程度宿題を出した。休業中にも、宿題を出した。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		(1)「あいさつ」に関する指導の徹底を図る。 (2)「さめはまのきまり」を基に、「規則を守る」、「約束を守る」、「役割を果たす」等の項目について、発達段階に応じた指導を展開し、徹底を図る。 (3)市民科、各教科、校外活動等、あらゆる場面で相手の立場に立って感じたり、考えたりすることの大切さに気付かせる指導を行い、正しい言葉遣いや人間関係作りができる児童を育てる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	「あいさつ」が身についているか。(「あいさつ」のアンケート項目について、7割以上の児童・保護者・教師が肯定的な評価をしている)			学校の
	教師は、工夫した「あいさつ運動」を実施しているか。	教師が呼名あいさつを率先して行うことにより、児童も進んであいさつをするようになってきた。あいさつ運動や声掛けなども、積極的に行っている。また、あいさつ当番を全校朝会で伝えることで、日によって参加する児童がまばらになることが無く、行うことができた。しかし、今年度の代表委員会では、いじめ撲滅や廊下歩行、休み時間の過ごし方をテーマに活動しており、あいさつ名人の選出などは行えなかった。	B	
	教師は、市民科の授業や日常の指導の中で、「あいさつ」をすることの大切さを理解させたり、児童の「あいさつ」が定着する取組をしたりしているか。	市民科の学習では、ワークシートを作成し、あいさつの定着を図った。市民科だけではなく、あいさつの効果について普段の生活の中でも伝えるようにしてきた。また、授業の始めと終わりのあいさつを必ず行うことで、児童にあいさつをすることを意識付けられている。	B	
②	「規範意識」「役割意識」が身についているか。(「規則を守る」「約束を守る」「係当番の役割を果たす」等の項目について8割以上の児童・保護者・教師が肯定的に評価をしている)			学校の
	教師は、「さめはまのきまり」を意識した指導を進めているか。	学期の始めに指導を行い、保護者にも呼びかけを行っている。今年から「さめはまのきまり」の内容を細かく見直したことで、曖昧ではなく具体的な指導を行うことができた。しかし、児童や保護者への定着はしていないように見える。	B	
	教師は、「時間・期限を守る」指導を徹底しているか。	時間や期限を守ることが子供たちができていなければ、その都度指導をしている。各学級で日々、時間を守ることについては指導をしている。チャイムで行動できるようになって来てはいる。活動準備、後片付けの時間を伝え時間内に終わるようにも指導中である。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		(1)品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズなどを実践し、運動習慣づくりを進める。 (2)チャレンジジャンプ週間、菜の花ロードランニング週間、縄跳び週間を設定し、体を動かす機会を設ける。 (3)健康の保持増進に関する啓発活動(「歯磨き」「ハンカチ・ティッシュ携帯」「バランスのとれた食生活」等)を実践し意識の向上を図る。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	体力調査の結果が昨年度までの記録や全国平均と比較して上回ることができたか。			各学年で決めていたこともあり、学校全体としては単元もバラバラであった。そのため、教具の片づけや準備も時間がかかりTAのほうも、各学年ごとに行うことを変えなければならなかった。また、全学年が同じ時期ではないので、系統性がなかった。そのため、学年を越えて相談もしにくかった。改善策としては、全学年で同じ領域の単元を同じ時期に計画し、教具の準備・片づけの短縮と置き場所・倉庫内の整備及び学年共通することによる系統性をもたせることによる学年間での打ち合わせや相談・教え合いがし易くなり単学級の不便性を解消することが期待できる。また、TAとの打ち合わせにおいてもスピーディー且、合理的に話し合いがすすめられ、学担の負担も減り、TAも活動しやすくなる。
	教師は、年間指導計画の工夫、日常の体育授業でのテクニカルアドバイザーの計画的な活用を含めた工夫した取組、学級・学校で取組の工夫等を進めているか。	低・中・高の各ブロックでは、なるべく同じ時期に同じ領域を計画・実行していたが、教具の置き場所がバラバラになり準備や片づけに時間がかかっていた。また、倉庫内も置き場所も整理整頓がされていないという課題が出た。TAについては、その都度打ち合わせする時間も少なく、TAの方から動いてくれたため助かっていた部分が各学年ともあった。内容については、模範演技や配慮が必要になる子について指導の補助を頼むなど計画的に行うことができた。	B	
②	運動の日常化を図ることができたか。休み時間に校庭や体育館などで体を動かす児童を増加させることができたか。			一校一取組、一学級一取組について明確ではなかった。また、スポーツトライアルについては計測が曖昧だったり、場所の狭さや担当できる教師側の人数の少なさなど課題がある。ワンミニッツエクササイズについては、今まで長期休業中の宿題のみで、日常での取り組みは無かった。体育の授業で取り組むことを試みたが全校共通することが難しかった。また、校庭が無いため休み時間の運動が確保できない。体育だけでの実施によるので、運動の日常化を図ることが困難である。改善策としては、一校一取組は「チャレンジジャンプ」、一学級一取組はスポーツトライアルの種目の中から数種類限定(場所等の問題点を解消するため)して各学級で選択し実施することで場所や教員側の人数の問題、計測するときの不透明性は解消される。10月と2月には各学級で計測して区に報告する。取り扱わなかった種目については、各単元の主になる運動につながるよう選択して実施する。ワンミニッツについては、鮫浜学習帳に取り入れ、毎日の宿題にすることによって
	教師は、ランニングや縄跳びカードの取り組み、ワンミニッツ・エクササイズ、スポーツトライアルの実施等、活動を工夫し、計画的に進めているか。	例年通り各取り組みについては、計画・実施はした。しかし、一校一取組、一学級一取組については、先生方の認識の違いがあり、全校で共通認識を図れなかった。学校改築のため校庭が無くなったこともあり、菜の花ロードランニングに向けての全校一斉での練習が困難になった。そのため、各学年で体育の授業の際、3分間走を行うこととした。ただ、ランニングカードについては、周回が取れなかったり、体育館・高架下・鮫洲グラウンドと場所もまちまちだったため、共通したものが作れなかったため学年裁量にした。スポーツトライアルは例年通り実施したが、校庭が無くなったことや児童数が多くなったこと、担当教員の人数が確保できないことなど課題がある。ワンミニッツ・エクササイズについては、長期休業の宿題として実施していたが、年々、実施者が少なくなってきていて目標値には届かなかった。校庭が無くなったことにより、休み時間の運動の確保が難しくなり、運動の日常化が困難になった。	B	
③	年間を通した歯磨き指導により、歯磨き習慣が定着した児童を増加させることができたか。			歯周病罹患率・う歯罹患率の中には、病院での治療がまだの児童もいるため、個別指導も行っていく。
	教師は、健康の保持増進(早寝・早起き・朝ごはん、歯磨き、ハンカチ・ティッシュ携帯、健康診断結果の治癒率の向上等)を計画的に進めているか。	・今年度から日課時間に歯磨きタイムを設定し、全校で給食後の歯みがきを実施している。・4年で9月に学校歯科校医による歯の清掃度検査を実施している。・5年で6月に全国小学校歯みがき大会に参加している。・全学年で学校歯科校医による歯科検診を年に2回4月と11月に実施し、う歯・歯周疾患の早期発見・早期治療に努めている。(12月末現在未治療者6人) ・令和元年度も東京都学校歯科保健優良校として表彰される。	B	
		・毎日担任が、各クラスで朝の会・出欠席調べの時間に児童の健康観察を行い声掛けをし、健康生活の意識づけを行っている。・保健室では、体調不良を訴えて来室した児童に生活チェック表を記入させ、個別の保健指導を行っている。・ハンカチ・ティッシュ携帯については教職員による声掛けをしたり、児童保健給食委員会によるハンカチ・ティッシュ携帯調べ等により計画的に進めている。・健康診断結果の治療率向上については、児童と保護者に水泳指導開始日までに治療が終了するよう声掛けをしている。	B	健康生活の習慣が身につけていない児童もいるため、全体指導と合わせて、個別指導も行っていく。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		(1)市民科、各教科、校外活動等、あらゆる場面で相手の立場に立って感じたり、考えたりすることの大切さに気付かせる指導を行い、よりよい人間関係作りができる児童を育てる。 (2)様々な人権問題について正しく理解させるとともに、あらゆる差別や偏見を許さない人権意識を高めていく。 (3)いじめ撲滅スローガンをもとに「いじめは、絶対に許されないこと」だという意識を育てる。 (4)生活アンケートやQUテスト等を通じていじめの早期発見に努める。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	「いじめは重大な人権侵害である」という意識を持たせ、自他の人権を尊重し、差別を許さない態度を育成する指導を、年間を通して計画的に行うことができたか。			
	教師は、日常の人権教育や人権標語・ポスター作成指導を計画的に行っているか。	市民科の学習と連携させて、計画的に行っている。	B	
②	早期発見に係る取り組みを、計画的に実施することができたか。			
	教師は、生活アンケート、QUテスト、教育相談活動や校内巡回等を通していじめの早期発見に努めているか。	努めている。アンケートの他、生活指導夕会等でも情報交換を行うことで各クラスの現状を知ることができている。	B	
③	いじめ発生事例について、すべての事例について組織的対応を行うことができたか。			
	学校は、いじめの疑いがある事例が発生した時は、すみやかに組織的対応を行っているか。	すみやかに組織的対応を行っている。経過や事後指導も含め、情報を共有しながら対応するよう努めている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		(1)地域ボランティアによる地域学習、学習支援等を通じて、地域との繋がりを体験的に学び、誇りと愛着を育てる。 (2)ボランティア活動(花海道プロジェクト、立会川美化運動、銀杏募金活動等)への取り組みを通して、地域貢献を体験的に学ばせる。 (3)異学年交流班活動、東大井保育園との交流活動、地域の高齢の方々との交流活動、中学校体験活動、外部講師の方々の授業等を通して、多様な振舞い方を学ばせるとともに多面的なものの見方、考え方ができるようにする。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	地域ボランティアによる実技実習や地域学習、サマースクールの採点支援などで学習効果を高めることができたか。また、校内外の活動見守り等により、安全で円滑な教育活動を行うことができたか。			A
	教師はより良い授業をするためや児童の安全確保のためにCSボランティア等を意図的、計画的に活用しているか。	コーティネーターと担任、CS担当が連携し、全校遠足や社会科見学等校外学習の引率や、ゲストティーチャー、放課後学習の講師等で計画的にボランティアを活用した。児童の安全を確保するとともに、よりよい授業づくりや基礎学力の向上を図ることができた。		
②	「しながわ花街道プロジェクト」「立会川美化運動」「銀杏募金」等を計画的に行うことができたか。			B
	教師は地域環境を生かした学習を行い、児童の地域を愛する心や地域貢献への気持ちを高める工夫を行っているか。	「しながわ花海道プロジェクト」を中心に地域環境を生かした学習を行った。次年度以降、地域の歴史を知ったり、地域へ貢献する力を付けたりするような学習を市民科一貫プラン内でカリキュラム化する。地域への理解をより深め、地域貢献への気持ちを高めるとともに、児童が主体となって地域へ貢献できるようにしていく。		
③	異年齢活動による目下への思いやりの心やリーダーシップ、目上への感謝の心を育てることができたか。			A
	教師は、保育園との交流、全校児童による交流班活動、学年を越えた交流学習、クラブ・委員会・全校集会及び発表活動等が意図的・計画的に実施しているか。	毎月1回の交流班活動、運動会での交流班競技や全校遠足等で異学年交流を計画的に行った。保育園との交流については、第5学年が中心となり、学校の様子を伝えたり、給食を一緒に食べたりするなどの活動を行った。その他、クラブ、委員会活動等では児童が主体となって活動できるよう計画、指導を行った。		

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成